

平成 22 年 6 月 7 日現在

研究種目：基盤研究(B)
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19402031
 研究課題名(和文) 潮州・バンコク間の移民と非市場経済 - 会館・批局・祖廟に関する新資料調査
 研究課題名(英文) Non-market Economy among migrants from Chaozhou to Bangkok: Research on Assembly Hall, Remitting House and Clan Hall
 研究代表者
 濱下 武志 (HAMASHITA TAKESHI)
 龍谷大学・人間・科学・宗教総合研究センター・研究フェロー
 研究者番号：90126368

研究成果の概要(和文):(1) 華僑の本国送金は、これまでの経済史研究においては家計補助もしくは貿易決済手段として主に議論されてきた。これに対して、資金が非市場的な目的をもって移動することをバンコクならびに潮州において送金資料の調査、両地の各種社会活動の調査を行うことにより、華僑送金の社会的・地域的な機能の重要性を数量的にも確認した。また、(2) 移民先社会における会館ならびに宗祠の役割は、単に移民元の地域結合を移転させたというのではなく、むしろ移民先における新たな地域コミュニティの形成と運営に重要な役割を果たしていたという内実を明らかにし、非市場的組織の果たした地域経済の中の役割の重要性を改めて強調できた。

研究成果の概要(英文):(1) Role of home remittance from overseas Chinese has been considered as supporting tool for household economy and trade settlement between South China and Southeast Asia. However, it is revealed from our survey on source materials and interviews on local remitting houses, assembly halls and Chinese temples for deities during 2007-2009 that these fund plays very important role in maintaining social ties by organizing several social activities such as annual festival of their local villages. (2) Therefore activities of assembly halls and clan halls are important in Bangkok for creating new relationships with local peoples to stay together. So we can emphasize that role of non-market economy is very importance in both sides to create and keep local communities lively and harmonious..

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2008 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2009 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
年度			
年度			
総計	4,100,000	1,230,000	5,330,000

研究分野：アジア経済史、中国金融史、華僑経済史

科研費の分科・細目：経済学・経済史

キーワード：(1) 経済史 (2) 華僑送金 (3) 中国廟 (4) バンコク (5) 潮州

1. 研究開始当初の背景

これまで華僑送金と移民先における地域

活動に関しては、移民先と移民元とを市場関係で捉えようとする接近方法が主流であつ

た[山岸猛『華僑送金』2005.論創社]。あるいは、Suchada Tantasuralerk, Poeykwan [1992.Chulalongkorn University]に代表されるように、移民先における送金を中心とした研究や、労働移民としての側面を強調する研究に限られていた。

しかしながら、潮州の80万人の人口に対して、潮州からタイへ移民した人口は300万人を超えているといわれ、このような移民先と移民元との関係は、単に出稼ぎ移民と家計補助の目的による本国送金という関係とは異なり、むしろ非市場的な関係による相互交流がなされ、これだけの移民を吸収する関係が出来上がってきたと考えることが自然であろう。この特徴から導かれることは、移民先においても地域コミュニティが形成され、その維持・運営のための資金が投入されている現実である。

加えて、近年中国の改革開放政策にも刺激され、タイの対潮州への送金の歴史的、現代的役割に対する関心が高まっている。その1つの表れとして泰中学会の華僑送金研究の進展がみられ(洪林・黎道綱主編『泰國僑批文化』2006.泰中学会)他方では、潮州における潮汕歴史文化研究中心の極めて活発な新一次資料発掘・収集活動がある(潮汕歴史文化研究中心編『僑批文化』2003年10月創刊)。これらの条件により、本課題に関する具体的な調査研究が可能となった。

2. 研究の目的

本研究は、20世紀前半を中心としたバンコクにおける華人移民社会の潮州への送金を取り上げ、会館・批局・祖廟の活動にみられる非市場的資金(寄付や慈善活動資金など)の流れを、近年発見された新たな資料調査を通じて歴史的に明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 潮州における調査

潮汕歴史文化研究中心に附設された『僑批文物館』により現在収集されつつある20万点余の送金資料(移民先から移民元の家族・親族への送金)を記した手紙ならびに封筒を、可能な限り複写収集し、送金元の地域ごとに分類し、また潮州の受け取り側の地域別分類を行い、非市場的側面に着目して送金の目的別実態を明らかにする。タイへの移民に関わる宗族の祭祀、祠廟や、学校その他の公共的な事業に関する支出

項目別分析を行い、華僑送金と移民元地域コミュニティの関係について明らかにする。

汕頭市資料館にて潮州移民ならびに送金に関する資料を調査し、地方政府が把握していた移民、送金に関する情報を明らかにする。

(2) バンコクにおける調査

送金業を営む批局を中心に訪問調査し、送金方法と目的地を明らかにする。

会館ならびに祖廟の調査をおこない、碑文や扁額などの内容と地域コミュニティの活動との関連について分析を行い、バンコクに於ける華人の地域コミュニティにおける活動と、非市場的な資金循環を明らかにする。

タイ国立図書館、およびタイ国立公文書館に所蔵される華僑送金、華僑移民関係のタイ語・中国語資料を収集検討し、政府側の送金、移民に関する政策について明らかにする。

4. 研究成果

(1) これまで経済史において家計補助もしくは貿易決済手段として華僑送金は議論されてきたことに対して、資金が非市場的な目的をもって移動することを項目別数量的に明らかにすることにより、華僑送金の社会的・地域的な機能の重要性に着目すべく視座の転換という課題とその具体的な道筋について問題を提起した(許慶発『潮汕僑批論文集』人民郵伝出版社、1993)。まず従来の研究蓄積が多い、タイから中国華南の潮州への送金が貿易決済資金として機能している点は、歴史的には次のように概括される。

バンコクにおいて批局が銀号に為替送金を依託する方法には三種類ある。第一は、香港ドル建ての電信為替または為替手形を香港の取引銀号に送る方法、第二は香港ドル建ての電信為替または為替手形を汕頭へ送り、当該銀号の汕頭支店あるいは取引銀号がタイの批局の汕頭取引銀号に香港で現金化する為替手形一通を支払う方法、第三は、中国元建ての電信為替または為替手形を汕頭に送る方法である。このうち、第一の方法が最も一般的で、第二がこれに次ぎ、第三は極めて稀である。為替手形による送金方法を利用するとき、手紙の発送と為替送金は常に同時におこなわれる。電信為替の場合、両者の間に時間の差があることは止むを得ないが、普通は手紙が汕頭に到着する数日前に電信為

替が香港に到着する。この送金チャネルは、非市場経済活動においても基本的に重要な役割を果たしていることが確認された。

(2) 華僑社会に関する社会学的分析の嚆矢ともいわれる陳達の研究[Ta Chen, 1939, *Immigrant Communities in South China*]に代表されるように、出稼ぎ移民による家計補助を主たる関心とした経済史研究においては、批局や銀信局など送金業務を行う機関そのものは検討の対象とはならなかった。あるいは検討されたとしても、単なる送金業務遂行機関とみなされるに止まっていた。

こうした研究状況に対して、本研究では、批局が送金業務のみならず、移民先と移民元との地域限定的な社会的結びつきを中継する重要な機関であることを明らかにした。

具体的には、潮汕歴史文化研究中心に附設された『僑批文物館』により収集された20万点余の送金資料(移民先から移民元の家族・親族への送金)を記した手紙ならびに封筒資料の複写収集により、送金元の地域ごとの特徴、ならびに潮州の受け取り側の地域別特徴の概要は以下のとおりである。

まず、前提として、このような華僑送金に関する伝統的な手紙が現在何故このように収集されているのかという状況について、その最大の理由として、帰国華僑の動きが増大していることが挙げられる。これは、必ずしも移民先から引き揚げるということを意味せず、むしろ移民先と僑郷とのつながりが改革開放政策以来より一層密接となり、往来が盛んになっているということである。

送金資料は僑批と総称される。これは単に匯款単のみではなく、手紙が付されており、ある場合には封所の上に直接にメモ書きされている。送金人の氏名住所と受取人の氏名住所、匯款の種類、金額が記され、手紙とともに批局に託して送られる。したがって資料の形式類別は、封・信・回批・票根などとなっている。資料の分類並びに配列は以下のとおりである。

- 1) 配列順序: 地域区分としては、現行の潮汕地区の県(区)、鎮(郷)、村、戸の順序で配列される。その後、僑批の多寡に基づいて分類し、その上で回数が多いものの順に配列する。同一村の中では、同一の送金人、受取人にまとめ、時期の早い順から配列する。
- 2) データベースとして入力した僑批の情報は、受け取り地、受取人、発送地、発送人、金額、日時、形式類別の7項目である。また、形式類別は、封と信がともに存在するもの、封のみ、信の

み、受取書、批局の送金証明書の5分類である。

僑批資金は、発送地バンコクから受け取り地である広東省潮汕地域(汕頭、澄海、潮陽、潮州、饒平、揭陽、普寧)に送られるのであるが、手紙の内容から見る限り、市場経済に関わるような内容、すなわち商品の売買、取引関係、市場状況、資金の用途、などについての記述は基本的には記されておらず、非市場的側面の記述がほとんどすべてを占めており、送り手と受け手との関係は市場活動を目的とはしていない。

バンコクの僑批業の状況は、20世紀初頭には以下のような記録が残されている。登録されている僑批業者は58家であり、当時の取引資料によって確認できる批局は以下のとおりである。

第1級(毎年の送金額50万元): 永裕源、松華興、曾錦記、萬成順、第2級(毎年の送金額40万元): 錦順隆、有盛、雲金發、第3級(毎年の送金額30万元): 成順利、元成利、陳協順、和合興、合興利、吳泰安、許泰萬昌、新合順、協成豐、第4級(毎年の送金額20万元): 吳亮合、謙和祥、萬德盛、廣順利、陳美盛、陳天合集成昌、陳炳春、振盛興、鄭謙和、和合祥

以上の23家の批局のうち、19家はヤワラート街に集中している。

また、送金量であるが、1908年第八郵政局の統計数字によると、以下の送金郵便統計記録がある。

1908年4月	汕頭行き4艘蒸気船	42456封
5月	批信143包	43281封
6月	批信131包	34103封
7月	批信134包	30775封
8月	批信126包	42088包
9月	批信132包	31902包

この統計数字に見られるように、送金は受け取った各人からの送金依頼の封筒・手紙をまとめて1包としてまとめて該当地へ送り、その後分別して配達した。上記統計数字で見ると、1包平均170余封がまとめて送られていくことになる。この点は、郵便事業の観点から見れば、個々人の手紙を1封ずつ切手を貼って郵送すべきであるということがしばしば指摘されている。実際、1928年に国内の民間郵便業である民信局を取締った際にも、華僑送金並びに郵便業を取扱う僑批局は存続した。他方、現金は銀号や銀行などを通して送金したり、またタイの場合には米に投資して、その米が香港に送られて販売されて利益を得るといった市場を通した送金がおこなわれていた。ただこの動きを非市場経済の観

点からみるならば、上記のいわゆる市場過程を通して送金されるレベルと、送金元と受け取り側の二者間の関係には、市場的な要素は入り込んではいない。むしろ血縁・地縁によってつながる同族や同郷の諸活動の経費として使用されているとみなすことができる。(3) 移民先社会における会館ならびに宗祠の役割は、単に移民元の地域結合を移転させたというものではなく、むしろ移民先における新たな地域コミュニティの形成と運営に重要な役割を果たしていたという内実を明らかにした。

この点は、非市場的組織の果たした地域経済の中の役割の重要性にも改めて注意を喚起した。具体的には、タイにおける華僑華人社会内部の方言グループを見ると、潮州系 56%、客家系 16%、海南系 12%、広東(広肇)系 7%、福建系 7%、その他 2%の分布であり、潮州系が圧倒的に多い。これらの方言グループは、それぞれが地縁的に結合し、会館を組織した。1877年の広肇会館の設立を始めとして、潮州会館、客属会館、海南会館、福建会館、などが設立された。同郷組織は、学校の設立と経営、共同墓地の運営と維持、同郷グループの慈善・敬老・親睦、などの活動を経常的におこなっており、ここに投入される資金は規模としてはきわめて大きく、この活動に関連して就労する人口も存在している。さらに、非市場的な資金の動きの事例として、地域コミュニティにおける諸神祭祀の諸活動を上げることができる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

濱下 武志「華僑華人研究の現在 グローバルとローカルの間で」日本華僑華人学会『華僑華人研究』査読有、第6号、2009年11月、5-19頁。

濱下 武志「亜洲視野中的全球化歴史」『亜太研究論叢』査読無、第6号、2009年8月、北京大学出版社、6-19頁

濱下 武志「Chineseの国際移動と国際秩序 歴史、現在、未来」アジア政経学会『アジア研究』査読有、第55巻第2号、2009年4月、56-69頁1

小泉 順子2008「"朝贡"与"条约"之间」『南洋問題研究』査読有、2007年第4期、pp.64-76.

[学会発表](計4件)

濱下 武志「華僑華人研究の課題と展望」日本華僑華人学会、2008年11月16日、筑波大学

濱下 武志「東アジア地政文化は成り立つか」北京外国語大学日本学研究センター年次研究大会、2007年10月20日、北京外国語大学日本学研究センター

Junko Koizumi, "Reconsideration of Siamese Diplomacy at the Turn of the Previous Century: From Western Impact to China Impact?", First CAPAS-CSEAS Symposium: "East Asian Perspectives on Southeast Asia: Taiwan and Japan in Focus", September 19-20, 2007, CAPAS Conference Room, Academia Sinica, Taipei, Taiwan

Hamashita Takeshi, "Maritime Asia and Maritime History Studies: 1600-2000", The Toho Gakkai, (Symposium VI, The International Conference of Eastern Studies, The Toho Gakkai, 18 May, 2007, Kanda Kyoiku-Kaikan

[図書](計3件)

Junko Koizumi, National University of Singapore Press, "Between Tribute and Treaty: Sino-Siamese Relations from the Late Nineteenth Century to the Early Twentieth Century," in Negotiating Asymmetry: China's Place in Asia, edited by Anthony Reid and Zheng Yangwen 2009, pp.47-72

濱下 武志, 社会科学文献出版社, 『中国・東亜と全球経済 区域和歴史的視角』, 2009, 275

Hamashita, Takeshi, Routledge, China, East Asia and Global Economy: regional and historical perspectives, 2008, 212

6. 研究組織

(1) 研究代表者

濱下 武志 (HAMASHITA TAKESHI)

龍谷大学・人間・科学・宗教総合研究センター・研究フェロー

研究者番号: 90126368

(2) 研究分担者

小泉 順子 (KOIZUMI JUNKO)

京都大学・東南アジア研究所・教授

研究者番号: 70234672

(H19 H20 連携研究者)

(3) 連携研究者